



## 土寄せは すき間なく

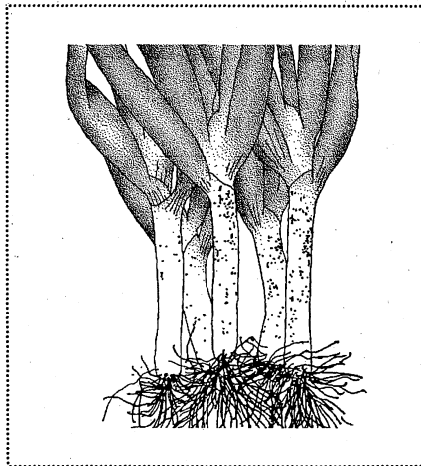
—— 鮫島 國親

根深ネギは白ネギとも呼ばれ、寒くなると一層おいしくなる野菜で、鍋物や焼き鳥などの材料として欠かせません。糖質が多く、ビタミンB<sub>1</sub>の吸収を助ける働きがあります。冬の低温で花芽ができ、春先の高温・長日でとうが立ちネギ坊主ができます。根深ネギ栽培の特徴は、葉の根元（葉鞘）部分を白くさせるための土寄せ作業が必要なことです。今回は春まき冬どり栽培を紹介します。

発芽適温は15－25度。生育適温は15－20度で、耐寒性が強いです。保水性があり、排水のよいほ場が適しています。連作障害は少ない方ですが、苗床は連作を避けましょう。

種まき期は3、4月です。苗床（地床育苗）には1平方メートル当たり、苦土石灰120グラム、堆肥2キログラム、化学肥料60グラム（三要素15%の場合）を目安として施し、土をよく砕きます。床幅120センチ、高さ10センチの平うねを作り、条間10センチに深さ1センチのまき溝をつけ、すじまき後薄く覆土します。発芽までは乾燥しないようワラなどで覆います。

発芽後密生部分を間引き、1メートル間に100本程度残します。1カ月後から化学肥料を2、3回に分けて追肥（1回20グラム）します。後半は草丈30センチを目安に葉切りを行い、倒伏を防ぎましょう。定植苗の太さは7ミリくらいを目標とします。育苗期間は3カ月くらいです。なお、チェーンポットを利用する育苗方法もあります。



本ぼの肥料は苗床と同程度の量（単位面積当たり）を施します。栽植密度は、うね幅100－120センチ、株間2.5－3センチ、一本植えとし、深さ10－20センチの溝を掘り、溝の側面（西側又は北側）に苗を垂直に立て根元に軽く土をかぶせます。定植25日後くらいから1カ月に一回化学肥料を4回程度追肥（一回20グラム）し、同時に中耕・土寄せを行います。

土寄せを一度に多くすると生育が弱ります。緑葉の分岐部分まですき間なく土寄せすることが大切です。土寄せ後約1カ月で葉鞘部が白くなります。白い部分の長さが30センチくらいになったら収穫（11－2月）します。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成20年12月11日（木）／南日本新聞